

巻 頭 言

卒業研究論文集のホームページでの公開について

理学療法学専攻主任
沖田 実

長崎大学医学部保健学科理学療法学専攻 8 期生の諸君、ご卒業おめでとう。また、大学 4 年間の集大成ともいえる卒業研究論文集をホームページ上に公開できることを教員の一人として大変嬉しく思います。

本専攻における卒業研究論文は、この 8 期生までは 4 年次に開講される「理学療法学セミナー」、「卒業研究」といった科目を通じて作成していきますが、並行して臨床実習も遂行している関係で、実際には臨床実習関連のすべてのスケジュールが終了した 9 月末からの本格的始動となります。つまり、実験や調査、データ解析等に費やせる時間は 2 ヶ月程度しかなく、12 月末の卒業研究発表会を迎え、その後は国家試験終了後の 3 月上旬に卒業研究論文を執筆するという学生にとっても教員にとっても超タイトなスケジュールになっています。しかし、誰一人として弱音を吐く学生はおらず、毎年、学生諸君の集中力とバイタリティーには感心させられますし、その姿を見ると理学療法界の明るい未来を想像します。

さて、ご存じのように本専攻の卒業研究論文集は 7 期生までは冊子体として発刊してきましたが、急速な情報メディアの進展とそのデジタル化という潮流に合致させるねらいで、今年度より冊子体での発刊を取りやめ、ホームページ上での公開という形をとることにしました。確かに、これまでよりも編集や印刷校正といった、特に助教の先生方の人的作業の軽減が図られ、しかも、ペーパーレスというエコロジーへの貢献もあり、印刷コストの削減につながったことは専攻を運営する立場として非常に喜ばしいことであります。しかし、その反面、全世界の人々から閲覧される可能性がでてきたことは間違いない事実であり(日本語なので国内に限られるとは思いますが)、その意味ではこれまで以上に、一つ一つの言葉の使い方から図表も含めた体裁、文献引用、そして論文内容そのものについても詳細に精査する必要があります。学生諸君も指導教員の先生からなかなか OK がもらえず、苦労したのではないかと思います。しかし、皆さんの方が詳しいように Twitter や Facebook に代表されるようなソーシャルネットワーキングサービスでの芸能人のちょっとした書き込みがものすごい反響を生むように、「言語」というものは生き物です。つまり、「言語」は武器にもなりますが、逆に弱点になることもあり、特に誰でもが閲覧できる媒体においてはその使い方には細心の注意が必要です。そして、これらのことを踏まえた上で、将来の理学療法界を担う皆さんには是非「言語」を武器として活用してもらいたいと思います。皆さんは今回の卒業研究論文を作成する過程で「言語」を武器とする方法の一端を経験しました。この貴重な体験を次のステップに生かし、新たな理学療法学のエビデンスとしての「言語」を創造して行って下さい。これからの大いなる活躍を期待しています。

最後に、これまで 8 期生をご指導頂きました教員各位ならびに非常勤講師や臨床実習指導者の先生方に深甚なる感謝の意を表します。

2013 年 3 月